

7.1.7 動物（海域に生息するものを除く。）

7.1.7 動物（海域に生息するものを除く。）

1) 調査の結果

(1) 調査の手法

① 調査すべき情報

調査すべき情報は、動物相（哺乳類、鳥類、両生類、は虫類、昆虫類、クモ類）の状況、重要な種及び群集並びに注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況とした。

② 調査の基本的な手法

調査は現地調査により情報を収集し、当該情報の整理及び解析を行った。

哺乳類のフィールドサイン調査では、調査範囲を任意に踏査し、足跡や糞などのフィールドサインを確認した。トラップ調査では、主にネズミ類を対象にシャーマントラップを調査地点に設置し、小型哺乳類を捕獲した。無人撮影調査では、生息が見込まれる地点にセンサーカメラを設置し、主に夜間に活動する哺乳類の撮影を行った。

鳥類の目視による直接観察では、調査範囲を任意に踏査し、双眼鏡などを用いて姿や鳴き声を確認した。ラインセンサスでは、設定した調査ルートを歩き、片側約 25m（全幅 50m）の範囲に出現した鳥類を記録した。定点調査では、設定した観察地点で 30 分間観察し、出現した鳥類を記録した。ラインセンサスおよび定点調査は、干潮時や満潮時に合わせて実施した。

両生類及びは虫類の目視による直接観察では、調査範囲を任意に踏査し、個体の目撃や死体、鳴き声、卵塊などにより生息種を確認した。

昆虫類の調査では、目視による直接観察や任意採集を行い、見つけ採り、スウィーピング、ビーティングなどの手法を用いて昆虫類を採取した。ライトトラップ調査では、設定した調査地点にボックス型の小型ライトトラップを設置し、飛来した走光性昆虫類を採集した。ベイトトラップ調査では、誘因餌を入れたトラップを各地点に 20 個設置し、地表性徘徊性昆虫類を採集した。

クモ類の調査では、目視による直接観察で実施した。干潮時には、対象事業実施区域および周辺の既設石積護岸なども調査対象とした。

現地調査の方法を表 7.1.7-1 に示す。

なお、調査において確認された種のうち、表 7.1.7-2 に示す選定基準に該当する種を重要な種として抽出した。

表 7.1.7-1 現地調査の方法

調査項目	調査方法
哺乳類	目視による直接観察、フィールドサイン調査、トラップ調査、無人撮影調査
鳥類	目視による直接観察、ラインセンサス、定点調査
両生類及びは虫類	目視による直接観察
昆虫類	目視による直接観察、任意採集、ライトトラップ調査、ベイトトラップ調査
クモ類	目視による直接観察

表7.1.7-2 重要な種の選定基準

No.	文献又は法律	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号） 「熊本県文化財保護条例」（昭和 51 年、条例第 48 号） 「宇土市文化財保護条例」（昭和 41 年、条例第 20 号）	国特天：国指定特別天然記念物
		国天：国指定天然記念物
		県特天：県指定特別天然記念物
		県天：県指定天然記念物
		市特天：市指定特別天然記念物
		市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年、法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種
		第一種：特定第一種国内希少野生動植物種
		第二種：特定第二種国内希少野生動植物種
		国際：国際希少野生動植物種
		緊急：緊急指定種
③	「熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例」（平成 16 年、条例第 19 号）	指定：指定希少野生動植物種
④	「環境省レッドリスト 2020」（環境省、2020 年）	EX：絶滅
		EW：野生絶滅
		CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類
		CR：絶滅危惧ⅠA類
		EN：絶滅危惧ⅠB類
		VU：絶滅危惧Ⅱ類
		NT：準絶滅危惧
		DD：情報不足
		LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑤	「レッドデータブックくまもと 2019」（熊本県、2019 年）	EX：絶滅
		EW：野生絶滅
		CR：絶滅危惧ⅠA類
		EN：絶滅危惧ⅠB類
		VU：絶滅危惧Ⅱ類
		NT：準絶滅危惧
		DD：情報不足
		LP：絶滅のおそれのある地域個体群
		AN：要注意種

③ 調査地域・調査地点

調査地域は、対象事業による動物への影響が想定される地域とし、対象事業実施区域周辺の概ね 200m とした。

調査地域及び調査地点を図 7.1.7-1 に示す。

④ 調査期間等

調査時期は、年間を通じた動物の状況を把握できる時期とした。

調査時期及び調査期日を表 7.1.7-3 に示す。

表 7.1.7-3 調査時期及び調査期日

調査項目	調査時期	調査期日
哺乳類	春季	令和6年5月23日～24日
	夏季	令和6年7月17日～19日
	秋季	令和6年10月16日～18日
	冬季	令和7年1月20日～21日
鳥 類	春渡り1	令和6年3月20日～21日
	春渡り2	令和6年5月11日～12日
	夏季	令和6年6月26日～27日
	秋渡り1	令和6年8月26日～27日
	秋渡り2	令和6年10月1日～2日
	冬季	令和7年1月6日～7日
両生類・は虫類	春季	令和6年5月23日～24日
	夏季	令和6年7月17日～19日
	秋季	令和6年10月16日～18日
昆虫類	春季	令和6年5月23日～24日
	夏季	令和6年7月17日～19日
	秋季	令和6年10月16日～18日
クモ類	春季	令和6年5月23日～24日
	夏季	令和6年7月17日～19日

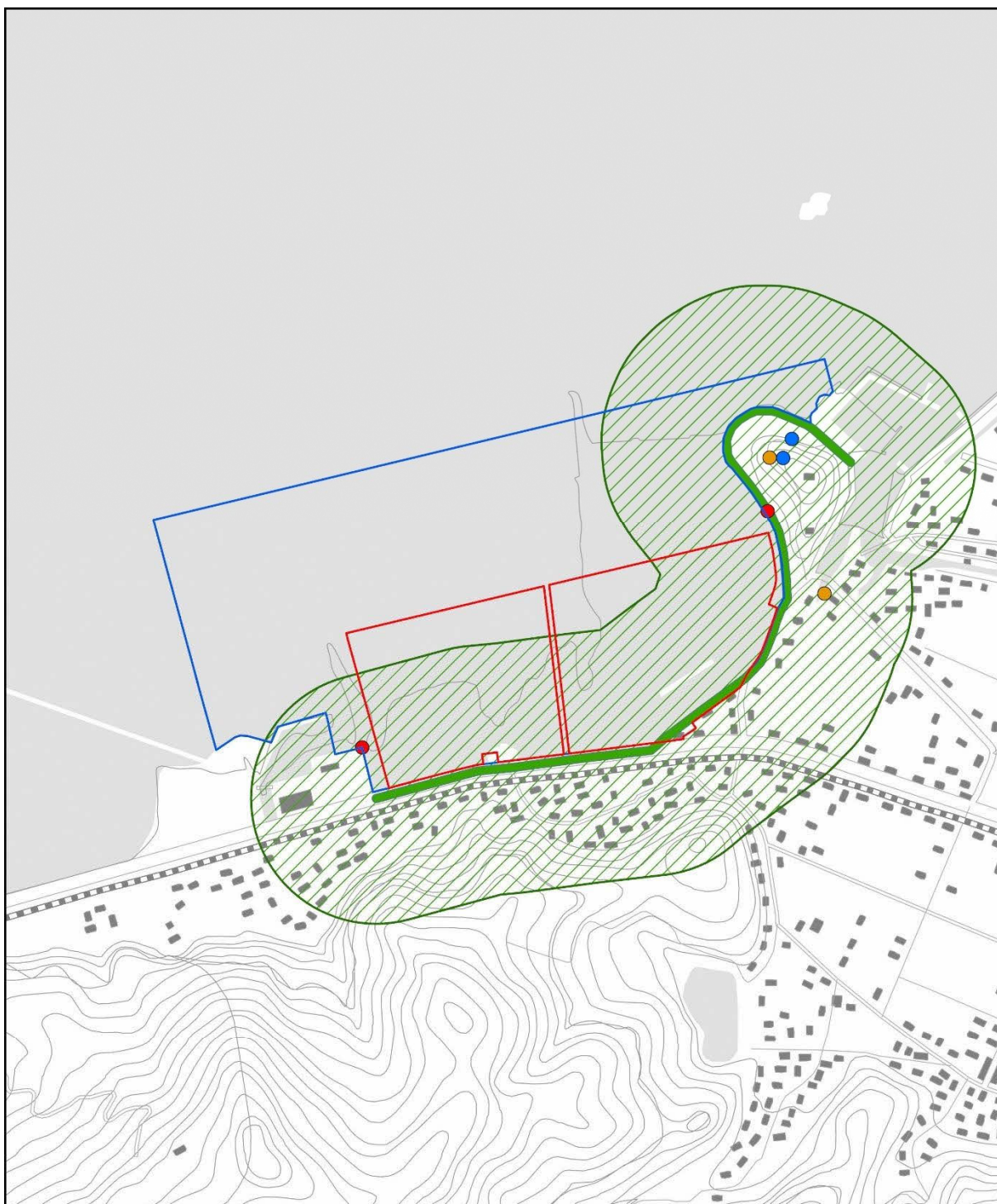


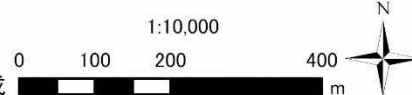
図7.1.7-1 調査地域及び調査地点

凡例

- 哺乳類(無人撮影)
- 昆虫類(ベイトトラップ・ライトトラップ)
- 鳥類(定点観察)
- 鳥類ラインセンサス
- 調査範囲(調査ルートより半径200mの範囲)

- 埋立区域
- 対象事業実施区域

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成



(2) 調査結果

① 哺乳類

調査の結果、表 7.1.7-4 に示す 4 目 4 科 7 種の哺乳類を確認した。

調査地域は、有明海に面する住宅地及び樹林地であり、対象事業実施区域の東側にはまとまった湿地状の土地もみられる。

コウベモグラ及びテンは、対象事業実施区域の東側の住吉自然公園をはじめ対象事業実施区域周辺の草地・耕作地や住宅地で確認された。アナグマ及びイノシシは、対象事業実施区域の東側の樹林地や草地・耕作地で確認された。対象事業実施区域の東側のヨシ群落ではカヤネズミが確認されており、調査地域を反映した結果となっている。

調査によって確認された種のうち表 7.1.7-2 に示す選定基準に該当する重要な種は、表 7.1.7-5 に示すカヤネズミ、イタチ属の一種の 2 種であった。

なお、イタチ属の一種について、熊本県内には外来種のシベリアイタチ（チョウセンイタチ）とニホンイタチが生息する可能性があり、フィールドサインでの判別が困難であるため、イタチ属の一種とした。本種が重要な種のニホンイタチの可能性を否定できないことから、ここでは重要な種として選定した。

重要な種の生態及び確認状況を表 7.1.7-6 XXXXXXXXXX に示す。

表 7.1.7-4 哺乳類確認種

No.	目 名	科 名	種 名	調査時期				重要種	重要種選定基準				
				春	夏	秋	冬		①	②	③	④	⑤
1	モグラ目（食虫目）	モグラ科	コウベモグラ	●	●	●	●						
2	ネズミ目（齧歯目）	ネズミ科	カヤネズミ		●			●					NT
3			ドブネズミ		●								
4	ネコ目（食肉目）	イタチ科	テン			●	●						
5			アナグマ		●								
6			イタチ属の一種※				●	●					VU※
7	ウシ目（偶蹄目）	イノシシ科	イノシシ		●	●	●						
計	4目	4科	7種	1種	5種	3種	4種	2種	0種	0種	0種	0種	2種

注 1) ※イタチ属の一種は、フィールドサインでの種の判別ができなかったが、ニホンイタチの可能性があるため重要な種に選定した。

注 2) 分類、配列、種名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度版)」(水情報国土データ管理センター、2024 年公表)に準じた。

表 7.1.7-5 重要な種（哺乳類）

No.	目 名	科 名	種 名	重要種選定基準				
				①	②	③	④	⑤
1	ネズミ目（齧歯目）	ネズミ科	カヤネズミ					NT
2	ネコ目（食肉目）	イタチ科	イタチ属の一種※					VU※
計	4目	4科	7種	0種	0種	0種	0種	2種

注 1) ※イタチ属の一種は、フィールドサインでの種の判別ができなかったが、ニホンイタチの可能性があるため重要な種に選定した

注 2) 分類、配列、種名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度版)」(水情報国土データ管理センター、2024 年公表)に準じた。

注 3) 重要な種の選定基準は、表 7.1.7-2 に示すとおりである。

表 7.1.7-6 重要な種の生態及び確認状況（哺乳類）

種名	選定基準	生態	確認状況
カヤネズミ	熊本県：NT	本州の太平洋側では宮城県以南、日本海側では新潟県・石川県以南、九州、四国、隠岐諸島、淡路島、豊島、因島、大崎上島、対馬、天草下島、福江島、口之永良部島などに分布する。 低地から標高1,200mあたりまで広く分布する。通常、低地の草地、水田、畑、休耕地、沼沢地などのイネ科・カヤツリグサ科植物が密生し水気のあるところに多い。水面を泳ぐ、鳥が作るような球形の巣を作り、巢材はススキ、チガヤ、エノクログサ、スゲ類などを用いる。巣のある高さは70～110 cmで、晩春と初冬に低く、夏～秋は高い位置にある。冬季には地表の堆積物や地下に孔道を掘り、畦道でも採集される。野外での食物調査はないが、飼育下の主な食物はヒエ・アワ・アサ・ヒマワリの種、サツマイモ、煮干、バッタ類などである。繁殖期は大部分の地域では春と秋の年2山型であるが、まれに夏にも繁殖する。 熊本県における生息環境は、イネ科・カヤツリグサ科の多い草地、河川敷・沼沢地・草原などであり、県内各地で確認されている。	夏季に球巣を1例確認した。
イタチ属の一種 ^{注)}	熊本県：VU	雌は一定の行動圏をもち、土穴などを巣とする。オスはいくつかの雌の行動圏に重なるような行動圏をもつ。九州では年2回繁殖する。カエル、ネズミ類、鳥類、昆虫類などの陸上小動物の他、水に入りザリガニなど甲殻類や魚を捕食することも多い。 熊本県における生息環境は、河畔や水田、農耕地の周辺、自然林や二次林、混交林や草地、豊富な餌(昆虫や魚、両生類、小型哺乳類)の存在である。 外来種のシベリアイタチ(チョウセンイタチ)が分布を拡張、本種の生息域は非常に狭まっている。	冬季に足跡を1例、糞を1例確認した。

注) イタチ属の一種の生態は、ニホンイタチの生態を掲載した。

出典：「日本の哺乳類〔改訂版〕」（阿部永監修、2005年7月、東海大学出版会）

「レッドデータブックくまもと2019」（熊本県、2019年）

② 鳥類

調査の結果、表 7.1.7-7 に示す 16 目 37 科 80 種の鳥類を確認した。

調査地域は、有明海の干潟、住宅地及び樹林地であり、対象事業実施区域の東側にまとまった湿地状の土地もみられる。

調査地域の干潟では、ツクシガモ、ヒドリガモ、アオサギ、ダイサギ、シロチドリ、オオソリハシシギ、ユリカモメ、ズグロカモメなどの水辺及びその周辺に生息する種が多く確認された。

干潟周辺の住宅地や樹林地では、キジバト、モズ、カササギ、ヒヨドリ、ムクドリなどの市街地及びその周辺に生息する種の他に、コジュケイ、アオバト、ホトトギス、リュウキュウサンショウウクイ、センダイムシクイなどの森林に生息する種も確認された。

確認種の多くは留鳥であったが、ツクシガモ、ヒドリガモ、ユリカモメ、ズグロカモメなどの冬鳥も多くみられ、夏鳥のセンダイムシクイなども確認された。

調査によって確認された種のうち表 7.1.7-2 に示す選定基準に該当する重要な種は、表 7.1.7-8 に示すツクシガモ、チュウサギ、クロツラヘラサギ、コサメビタキなど 16 種であった。

重要な種の生態及び確認状況を表 7.1.7-9、確認位置を図 7.1.7-3 に示す。

表 7.1.7-7(1) 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	調査時期											
				3月			5月			6月			8月		
				内	外	海	内	外	陸	内	海	外	内	海	外
1	キジ目	キジ科	コジュケイ						○						
2			キジ						○						
3	カモ目	カモ科	ツクシガモ	○										○	
4			ヒドリガモ	○	○									○	○
5			マガモ	○	○						○		○	○	○
6			カルガモ	○	○		○	○					○	○	○
7			オナガガモ	○	○									○	○
8			コガモ	○	○										
9			ホシハジロ	○	○									○	
10			キンクロハジロ	○											
11			スズガモ											○	
12	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ		○					○					
13	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○
14			キジバト		○				○			○		○	○
15			アオバト									○			
16	カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○			○		○				○	○
17			ウミウ											○	
18	ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
19			ダイサギ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
20			チュウサギ												
21			ロサギ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
22			ハラサギ	○				○		○					
23		トキ科	クロツラヘラサギ	○									○	○	○
24	ツル目	クイナ科	オオバン								○				
25	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス						○						
26	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ			○									
27	チドリ目	チドリ科	シロチドリ												○
28		ミヤコドリ科	ミヤコドリ	○											
29		シギ科	オオソリハシシギ				○								
30			チュウシヤクシギ				○	○						○	

注 1) 表中の「内」とは対象事業実施区域内、「外」とは対象事業実施区域外の海域(海)あるいは陸域(陸)で確認されたことを示す。
 注 2) 分類、配列、種名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和6年度版)」(水情報国土データ管理センター、2024年公表)に準じた

表 7.1.7-7(2) 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	調査時期											
				3月			5月			6月			8月		
				内	外	海	内	外	陸	内	外	海	内	外	陸
31	チドリ目	シギ科	ダイシャクシギ												
32			アオアシシギ				○	○						○	○
33			キアシシギ					○					○	○	
34			ソリハシシギ					○							
35			イソシギ	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
36			ハマシギ											○	
37			ユリカモメ	○	○										○
38			ズグロカモメ	○										○	○
39	タカ目	ミサゴ科	ウミネコ	○						○	○	○			
40			セグロカモメ	○	○					○	○	○	○	○	○
41			ミサゴ	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
42			トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43			ハイタカ		○										
44			ノスリ												○
45			アオバズク						○						
46			クロセミ	○	○			○	○			○			
47	ハヤブサ目	ハヤブサ科	コゲラ		○			○	○				○		○
48			アオゲラ										○		
49			ハヤブサ	○	○					○	○			○	○
50			リュウキュウサンショウクイ						○						
51			モズ											○	
52			カササギ			○									
53			ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54			ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	ツバメ科	ツバメ科	ツリスガラ		○										
56			ヤマガラ		○				○				○		○
57			シジュウカラ		○				○						○
58			ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
59			イロツバメ		○										
60			ヒヨドリ		○				○				○		○

注 1) 表中の「内」とは対象事業実施区域域内の海域（海）あるいは陸域（陸）で確認されたことを示す。
 注 2) 分類、配列、種名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度版)」(水情報国土データ管理センター、2024 年公表)に準じた

表 7.1.7-7(3) 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	調査時期																	
				3月			5月			6月			8月			10月			1月		
				内	外 海	陸	内	外 海	陸	内	外 海	陸	内	外 海	陸	内	外 海	陸			
61	スズメ目	ウグイス科			○									○							
62		エナガ科			○										○						
63		ムシクイ科																			
64		メジロ科			○										○						
65		ムクドリ科													○						
66																					
67							○										○				
68		ヒタキ科					○														
69																					
70																					
71					○													○			
72					○		○									○					
73																					
74																					
75	スズメ科			○		○									○				○		
76	セキレイ科			○											○				○		
77				○		○								○	○		○		○		
78	アトリ科			○															○		
79	ホオジロ科					○											○				
80						○													○		
合計				31種	25種	33種	16種	19種	25種	17種	19種	28種	13種	23種	16種	22種	28種	27種	21種	29種	

注1) 表中の「内」とは対象事業実施区域内、「外」とは対象事業実施区域外の海域（海）あるいは陸域（陸）で確認されたことを示す。
注2) 分類、配列、種名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスタ（令和6年度版）」（水情報国土データ管理センター、2024年公表）に準じた。

表 7.1.7-8 重要な種（鳥類）

No.	目 名	科 名	種 名	重要種選定基準				
				①	②	③	④	⑤
1	カモ目	カモ科	ツクシガモ				VU	NT
2	ペリカン目	サギ科	チュウサギ				NT	NT
3		トキ科	ヘラサギ				DD	AN
4			クロツラヘラサギ		国内		EN	EN
5	チドリ目	チドリ科	シロチドリ				VU	VU
6		シギ科	オオソリハシシギ				VU	VU
7			ダイシャクシギ					NT
8			ハマシギ				NT	NT
9		カモメ科	ズグロカモメ				VU	NT
10	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ				NT	
11		タカ科	ハイタカ				NT	
12	フクロウ目	フクロウ科	アオバズク					VU
13	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ		国内		VU	VU
14	スズメ目	ムシクイ科	センダイムシクイ					NT
15		ヒタキ科	コサメビタキ					EN
16			キビタキ					AN
計	7目	12科	16種	0種	2種	0種	11種	14種

注 1) 分類、配列、種名等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度版)」
(水情報国土データ管理センター、2024 年公表)に準じた。

注 2) 重要な種の選定基準は、表 7.1.7-2 に示すとおりである。

表 7.1.7-9(1) 重要な種の生態及び確認状況（鳥類）

種名	選定基準	生態	確認状況
ツクシガモ	環境省：VU 熊本県：NT	冬鳥。干潟や内湾、港。主に九州の中部以北の海岸に定期的に渡来。他の地域では不定期。干潟を好んで生活し、満潮時に水没しない場所か、沖合の海面で休息する。潮が引くと水際や水が少し残ったところなどで採食する。嘴を水面につけて、頸を左右に振りながら甲殻類や海藻類などをとる。水の深いところでは、頸を水中に入れて採食する。 熊本県における生息環境は干潟、河口、干拓地である。冬鳥として、主に九州地方の浅海域に渡来する。近年は白川河口や緑川河口域、八代海などでの越冬数が500羽を超え、県内では増加傾向にある。	対象事業実施区域内の埋立区域で3月及び1月に多くの個体を確認した。 図 7.1.7-3(1) 参照
チュウサギ	環境省：NT 熊本県：NT	夏鳥、暖地では一部留鳥。草地、水田、湿地、湖沼、池など。他のサギ類と混じってコロニーをつくり繁殖する。早朝にねぐらや営巣地から飛び立って採食場へ行く。繁殖期、食物を運ぶために採食場と巣を行き来する。繁殖後の日中は採食場にとどまって、ねぐらへは夕方に隊列を組んで帰る。 熊本県における生息環境は低地の水田、畑、湿地である。主に夏鳥として、県内各地の平野部の河川や水田、湿地などに渡来する。水辺に近い竹林や雑木林上に他のサギ類と集団繁殖する。魚類、カエル、水生昆虫、バッタなどを捕食する。他のシラサギ類が水際や水中で採餌を行うのに対し、より乾燥した環境でも採餌し、干潟に出ることは少ない。	対象事業実施区域内で8月に1例を確認した。 図 7.1.7-3(2) 参照

出典：「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（1998年5月、山と溪谷社）

「レッドデータブックくまもと 2019」（熊本県、2019年）

表 7.1.7-9(2) 重要な種の生態及び確認状況（鳥類）

種名	選定基準	生態	確認状況
ヘラサギ	環境省：DD 熊本県：AN	冬鳥または旅鳥。干潟、水田、湿地、河川、湖沼、池など。近年は全国で数羽が渡来するだけ。中州などで頸を背に乗せて休息し、ときどき採食場に移動する。嘴を半開きにして水中で左右に振りながら、魚類の他に、カエルやカニなどを採食する。熊本県における生息環境は低地の水田や畑、湿地、干潟である。八代海や有明海の干潟や河口に冬鳥として飛来する。1996年ごろから毎年飛来しているが、個体数は1～数羽と多くはない。クロツラヘラサギの群れに混じって休憩・採餌を行うことが多い。	対象事業実施区域及びその周辺で冬(1月)以外の3月、5月、6月、8月、10月に6例を確認した。 図 7.1.7-3(3) 参照
クロツラヘラサギ	種の保存法 ：国内 環境省：EN 熊本県：EN	冬鳥または旅鳥。干潟、河口、水田、河川、湖沼など。世界的に数が少ない貴重な鳥。日本には毎年記録があり、特に九州に多い。日中はアシ原の際や中州、水田の中央などで休息していることが多い。海岸近くの干満のあるところでは干潮時に採食し、潮に左右されないところでは朝夕に活発に行動する。浅瀬に嘴を少し開いて入れ、左右に振りながら歩き回り、嘴に触れた魚をとらえて食べる。熊本県における生息環境は、干潟や海岸に近い水田、湿地、湖沼である。冬鳥として渡来し、白川や緑川の河口域及び八代海沿岸域を主な越冬地とするが、荒尾海岸、菊池川河口、江津湖などでも少数が越冬する。90年代後半から急激な増加を見せ、2018年には約508羽になった。若い個体の中には越夏する個体もいる。熊本県は国内最大級の渡来地となり2018年には171羽となっている。従来の越冬地である東南アジアの沿岸域の環境悪化により、熊本県への渡来が増加しているものと思われる。	対象事業実施区域及びその周辺で夏(6月)以外の3月、5月、8月、10月、1月に多くの個体を確認した。 図 7.1.7-3(4) 参照

出典：「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（1998年5月、山と溪谷社）

「レッドデータブックくまもと 2019」（熊本県、2019年）

表 7.1.7-9(3) 重要な種の生態及び確認状況（鳥類）

種名	選定基準	生態	確認状況
シロチドリ	環境省：VU 熊本県：VU	留鳥または漂鳥。中部地方以北では夏鳥。関東地方以西では越冬するものが多い。海岸の砂浜、河口、干潟、河川、沿岸の造成地や埋立地など。越冬期は群れて行動することが多い。潮の干満に影響されて生活する。せわしなく歩き回り、甲殻類、ゴカイ類、貝類などを採食する。全国的に繁殖し、砂丘や川原、埋立地などの浅い窪みに、貝殻や木片などを敷いて簡単に巣を作る。 熊本県における生息環境は河口、干潟である。1970年代には春と秋の渡りの時期に、2,000羽を超す群飛がみられたが、近年は多くても数百羽程度と減少した。一部は越冬する個体もいる。また、少数は繁殖するが、汀線の砂地の減少により生息・繁殖が危惧される。	対象事業実施区域内の埋立区域で1月に74例を確認した。 図 7.1.7-3(5) 参照
オオソリハシシギ	環境省：VU 熊本県：VU	旅鳥。海岸の砂浜、干潟、河口、海に近い水田や河川など。地方によって、春秋のどちらにも渡来するところと春または秋にしか渡来しないところがある。ゴカイ類を特に好み、嘴を穴に刺し込んで取る。 熊本県における生息環境は河口、干潟である。春と秋の渡りの時期に、有明海や八代海沿いの干潟に渡来する。2000年代当初は年によって200羽以上が飛来することもあったが、近年は減少傾向が著しい。	対象事業実施区域内の埋立区域で5月に2例を確認した。 図 7.1.7-3(6) 参照
ダイシャクシギ	熊本県：NT	旅鳥または冬鳥。干潟、砂浜、河口、農耕地など。渡りの時期も越冬中も群れて行動する。日本海側は少なく、太平洋側の干潟で多く越冬する。カニをよくとり、嘴で巣穴から上手に引っ張り出し、足を振り落として体を丸飲みにする。他に貝類やゴカイ類などをとることもある。渡りの時期には淡水の湿地や草地に入ることがあり、そのときはバッタなどの昆虫類をよくとる。 熊本県における生息環境は、河口、干潟である。春と秋の渡りの時期に、有明海や不知火海の干潟や河口域に渡来する。砂干潟よりも泥干潟に多い。	対象事業実施区域外の風流島の南東側で10月に11例を確認した。 図 7.1.7-3(7) 参照

出典：「山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥」（1998年5月、山と溪谷社）
「レッドデータブックくまもと2019」（熊本県、2019年）

表 7.1.7-9(4) 重要な種の生態及び確認状況（鳥類）

種名	選定基準	生態	確認状況
ハマシギ	環境省：NT 熊本県：NT	旅鳥または冬鳥。干潟、河口、汽水域、海岸の砂丘や岩場、水田、湿地、河川、湖沼や池の湿泥地など。群れで行動し、多い群れは 1,000 羽を超す。干潟、海岸の砂泥地や岩の上を忙しく動き回って、貝類、ゴカイ類などをとる。また、淡水域でも浅い水の中に入って陸生貝類や甲殻類、ミミズ類、昆虫類の幼虫などをとる。 熊本県における生息環境は、河口、干潟である。かつては春と秋の渡りの時期に、数千羽の群れが干潟の上を乱舞する姿が見られたが、近年は数百～数千羽に減少した。また、秋の渡り時期よりも越冬期に個体数が増加するので、越冬個体群が別に渡来しているものと思われる。	対象事業実施区域内の埋立区域で 1 月に 7 例を確認した。 図 7.1.7-3(8) 参照
ズグロカモメ	環境省：VU 熊本県：NT	冬鳥。干潟、河口など。全国に記録はあるが、関東地方以西に局地的に渡来する。九州北部に特に多い。世界的に数は少ないが、日本への渡来数は近年増加傾向にある。広い干潟などで点々と百羽以上がみられるところもあるが、それぞれ 1 羽で行動し、群れで行動することはない。浅い水辺や干潮の干潟の上空を飛び回り、水中にダイビングしたり、着地したりして主にカニをとる。 熊本県における生息環境は、干潟、河口である。主として西日本の泥質の干潟で越冬する。荒尾海岸や白川・緑川・球磨川等の河口域及び八代海の干潟に多い。1980 年代までは稀な冬鳥であったが、近年は県内で 700 羽以上を数えるまでになった。	対象事業実施区域及びその周辺で 3 月、1 月に多くの個体を確認した。確認個体の多くは埋立区域であり、1 月に確認例数が多くなっていた。 図 7.1.7-3(9) 参照
ミサゴ	環境省：NT	留鳥。寒冷地のものは冬、暖地へ移動する。南西諸島では冬鳥。海岸、河口、湖沼、池、河川など。1 羽か 2 羽で行動する。魚食性のタカ。水面上で低空飛行し、水中に足から飛び込んで魚類をとる。海岸の岩棚、切り立った岩の上、河川の崖、山林の大木の枝上などに巣を作って繁殖し、毎年同じ巣を利用する。	対象事業実施区域及びその周辺で年間を通じて確認した。 図 7.1.7-3(10) 及び図 7.1.7-3(11) 参照

出典：「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（1998 年 5 月、山と溪谷社）
「レッドデータブックくまもと 2019」（熊本県、2019 年）

表 7.1.7-9(5) 重要な種の生態及び確認状況（鳥類）

種名	選定基準	生態	確認状況
ハイタカ	環境省：NT	留鳥または漂鳥。南へ行くほど少ない。平地から亜高山帯の林。群れになることはなく、繁殖期はつがいで行動し、繁殖後は1羽になって生活することが多い。鳥類を主にとり、ネズミ類などもとる。越冬地では小鳥の集まる場所の近くで生活している個体が多い。	対象事業実施区域の南側の樹林地上空を飛翔する個体を3月に1例確認した。 図 7.1.7-3(12) 参照
アオバズク	熊本県：VU	夏鳥。暖地ではごく少数が越冬。平地から山林の林、農耕地など。繁殖期は夕方に雌雄が鳴き合い、その後活動を始める。羽音を立てずに飛び回り、主にガ類や甲虫類をとる。他に小鳥類やコウモリなどもとる。低山の山麓の林や、社寺林でよく営巣し、巣は樹洞で、建造物などの穴でも営巣する。抱卵は雌が行い、雄は見張りをする。雛が大きくなると見張りは雌だけか、雌雄で行う。 熊本県における生息環境は、低山帯の大径木のある社寺林等である。夏鳥として、県下各地の大径木のある環境に少数が渡来する。営巣できる樹洞をもつ大木や餌となる昆虫が減少し、渡来数は年々少なくなっている。	対象事業実施区域の東側の住吉自然公園の樹林地で6月に1例を確認した。 図 7.1.7-3(13) 参照
ハヤブサ	種の保存法 ：国内 環境省：VU 熊本県：VU	留鳥または冬鳥。平地から山地の河川、海岸、湖沼、農耕地など。1羽かつがいで生活する。羽ばたいて直線的に飛び、ときどき滑翔する。非繁殖期には、日中は安全な場所で休息し、朝夕は活発に行動して主に鳥類をとる。低空を飛んでいるものや、地上で休んでいるものを上空に飛び立たせて追いかけたり、飛翔中の群れを乱して1羽を追いかけて足でつかみとる。 熊本県における生息環境は崖地のある沿海地や平野部の農耕地である。県内数ヶ所の海岸や内陸部の崖地で繁殖しているが、近年の動向は安定しているようである。冬期は、さらに北方から渡来する個体がいるほか、大陸から別亜種も渡来している。	対象事業実施区域及びその周辺で3月、6月、8月、1月にそれぞれ1例を確認した。 図 7.1.7-3(14) 参照

出典：「山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥」（1998年5月、山と溪谷社）
「レッドデータブックくまもと2019」（熊本県、2019年）

表 7.1.7-9(6) 重要な種の生態及び確認状況（鳥類）

種名	選定基準	生態	確認状況
センダイムシクイ	熊本県：NT	夏鳥。平地から山地の林。縄張り内の林内や灌木の枝上で、体をたえず動かして活発に行動し、昆虫類、クモ類などを採食する。渡りの時期には市街地の街路樹や公園、庭などでも姿がみられる。 熊本県における生息環境は荒地、草地、農地である。冬期に平野部の農耕地や阿蘇の草原などに渡来する。近年は草地改良や干拓地の土地改良、耕作物の変化などもあり、観察例が少なくなり、生息が危ぶまれている。また、農耕地に張られている防鳥網にかかり死亡する例も少なくない。	対象事業実施区域の東側の住吉自然公園の樹林地で8月に1例を確認した。 図 7.1.7-3(15) 参照
コサメビタキ	熊本県：EN	夏鳥。平地から山地の林。繁殖期以外は1羽で生活するものが多い。サメビタキよりも、林縁や明るい林を好む傾向がある。見通しのよい枝に垂直にとまり、飛んでいる昆虫類を空中採食し、再び同じ枝に戻る。秋の渡りの時期には、農耕地やごみ捨て場などのハエが発生する場所に集まることがある。 熊本県における生息環境は明るい広葉樹林である。かつては、夏鳥として少なからず渡来し、県内各地の低山帯から山地帯まで広く繁殖していた。現在は、限られた場所で、ごく少数が繁殖しているだけで、渡りの時期以外にはほとんど姿をみることができない。	対象事業実施区域の東側の住吉自然公園の樹林地で10月に2例を確認した。 図 7.1.7-3(16) 参照
キビタキ	熊本県：AN	夏鳥。先島諸島では留鳥。平地から山地の林。繁殖期は、主に樹冠下に空間が広がる高木の多い林。繁殖期以外は1羽で生活しているものが多い。林内の枝に垂直にとまり、あまり活発に動かず、葉や枝にいる昆虫類、クモ類などを採食し、ときどき空中に飛び立って空中採食もする。 熊本県における生息環境は低山帯から山地帯の広葉樹林、竹林である。かつては夏緑樹林の鳥と考えられていたが、近年は標高の低い照葉樹林やモウソウ林でも繁殖期を通じてみられるようになった。しかし、かつての生息地の夏緑樹林では減少傾向にある。	対象事業実施区域の東側の住吉自然公園及び南側の樹林地で5月、6月、10月に16例を確認した。 図 7.1.7-3(17) 参照

出典：「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（1998年5月、山と溪谷社）
「レッドデータブックくまもと 2019」（熊本県、2019年）

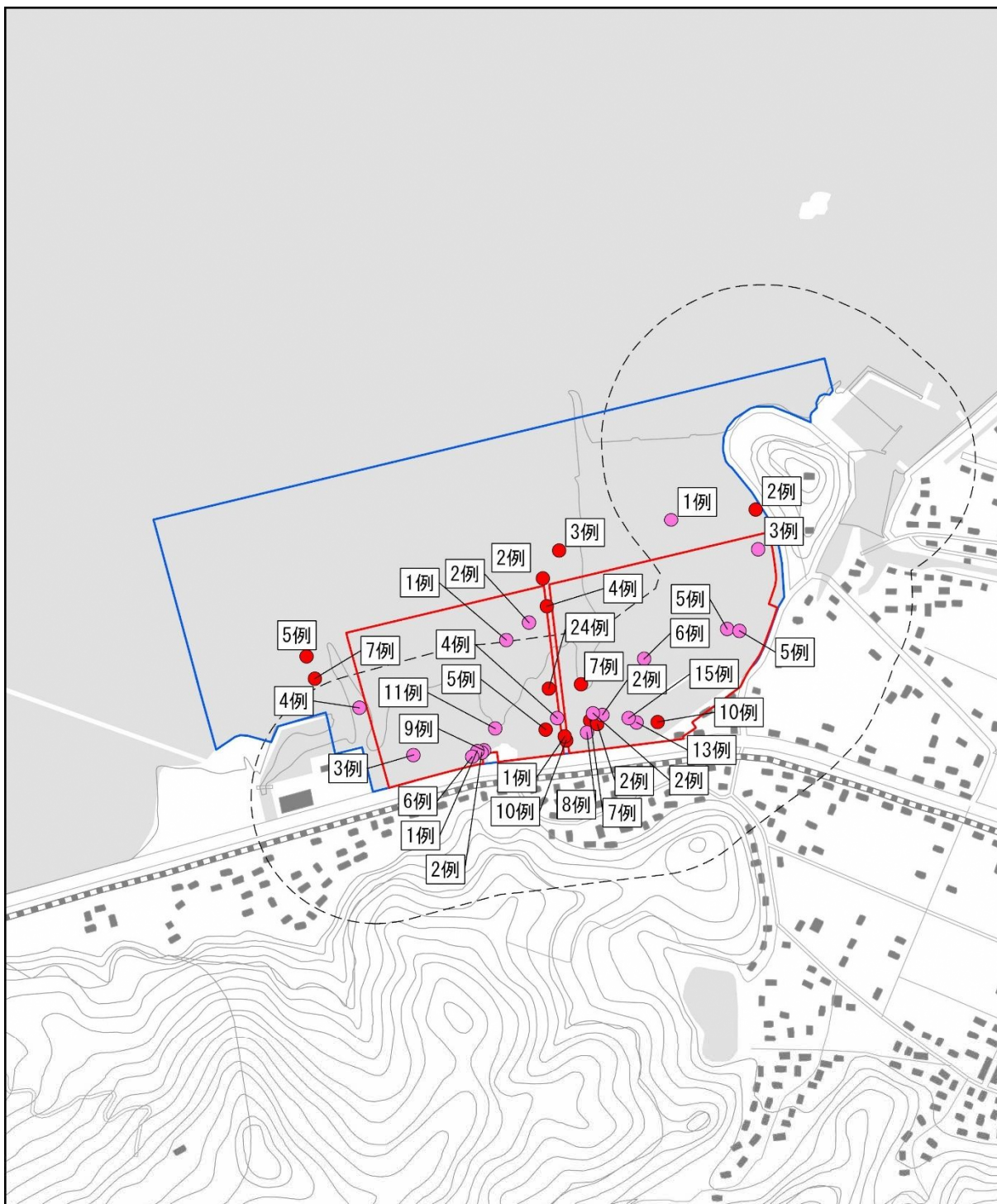


図7.1.7-3(1) ツクシガモの確認位置図

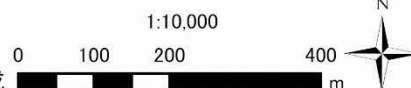
凡例

- 1月
- 3月

- 埋立区域
- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(調査ルートより半径200mの範囲)

注) 図注の数値は、確認例数を示す。

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成



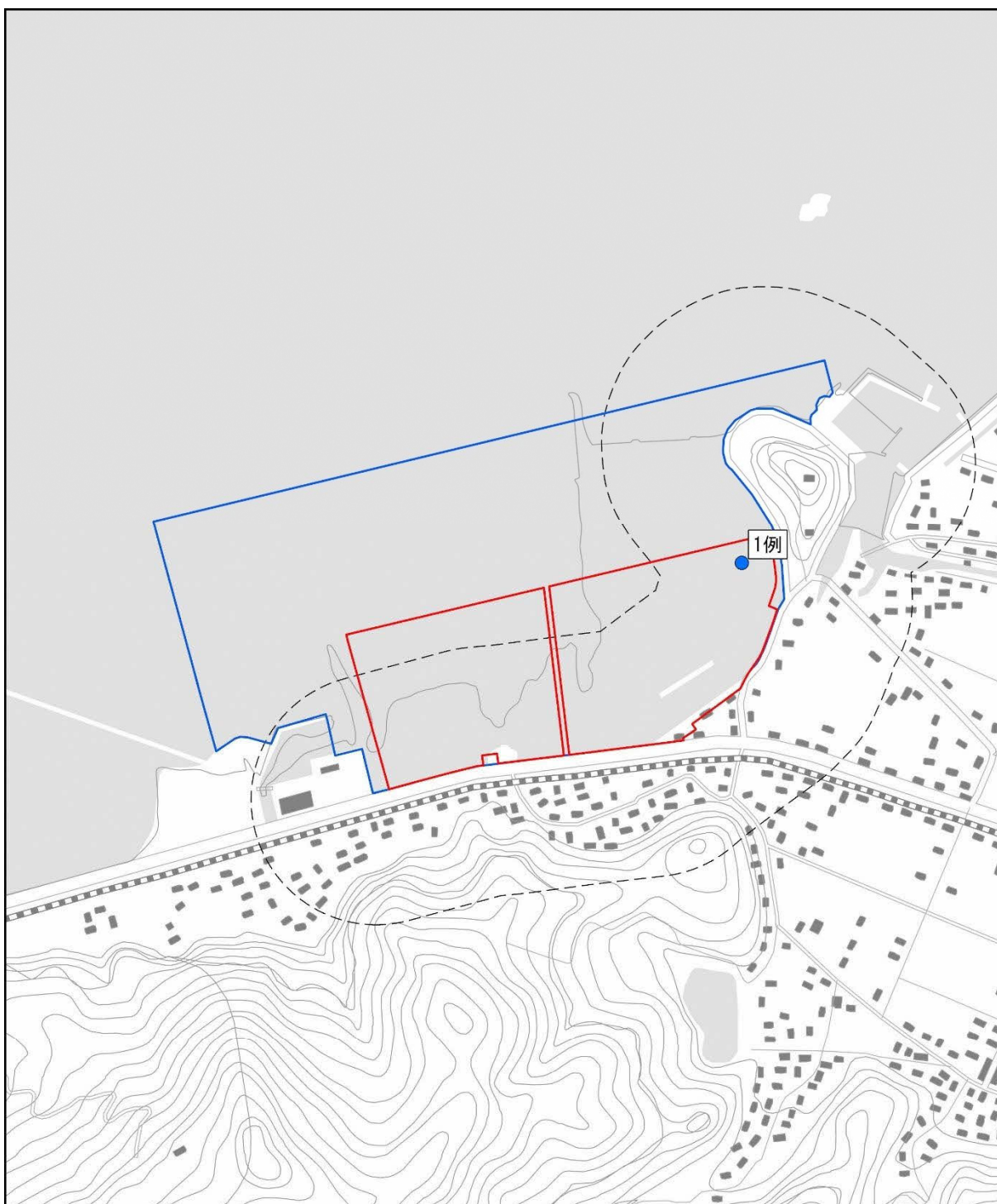


図7.1.7-3(2) チュウサギの確認位置図

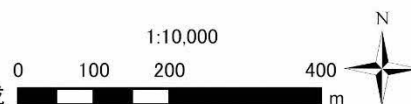
凡例

● 8月

埋立区域
 対象事業実施区域
 調査範囲
 (調査ルートより半径200mの範囲)

注) 図注の数値は、確認例数を示す。

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成



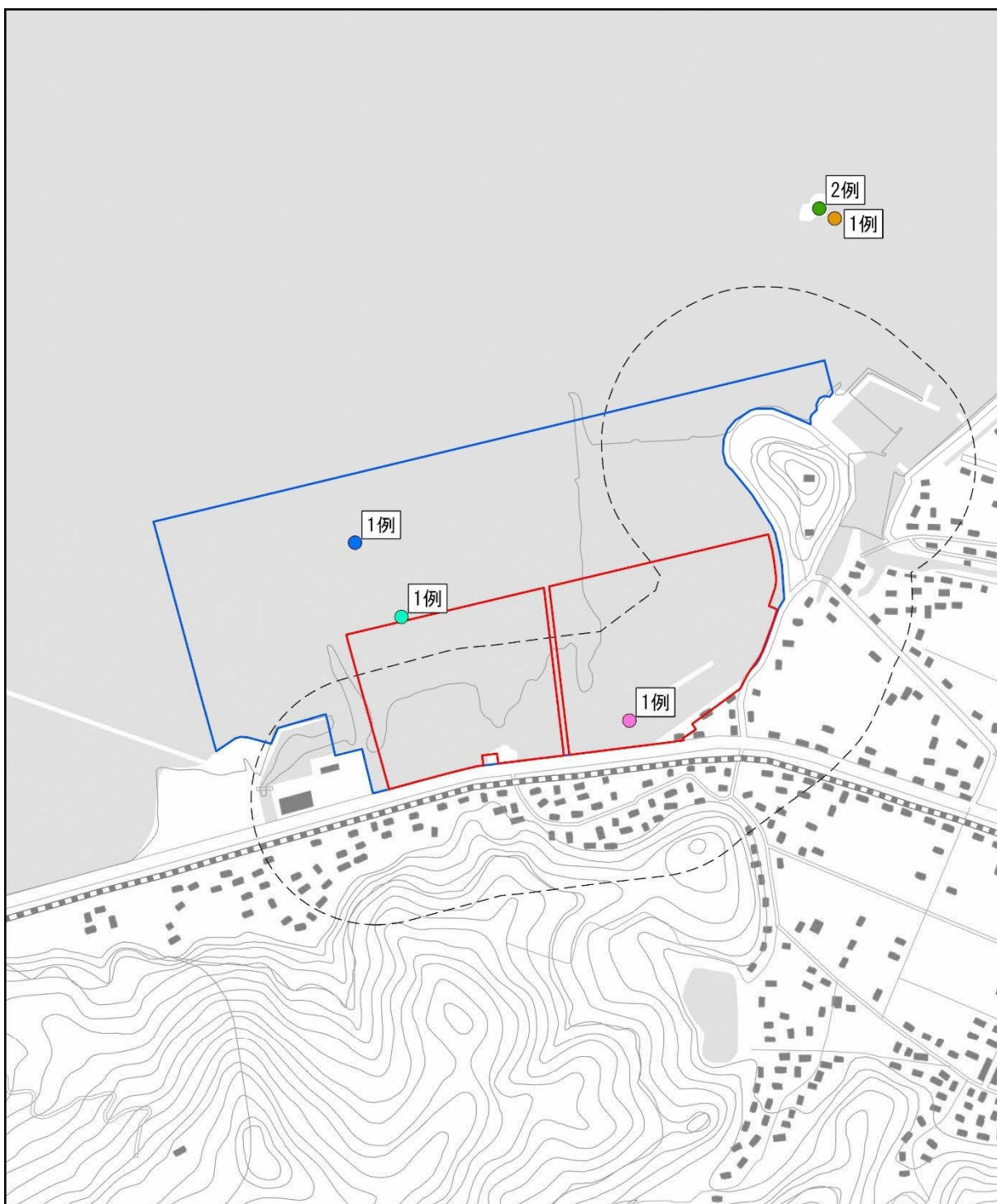


図7.1.7-3(3) ヘラサギの確認位置図

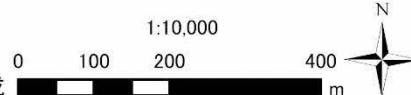
凡例

- 3月
- 5月
- 6月
- 8月
- 10月

- 埋立区域
- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(調査ルートより半径200mの範囲)

注) 図注の数値は、確認例数を示す。

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成



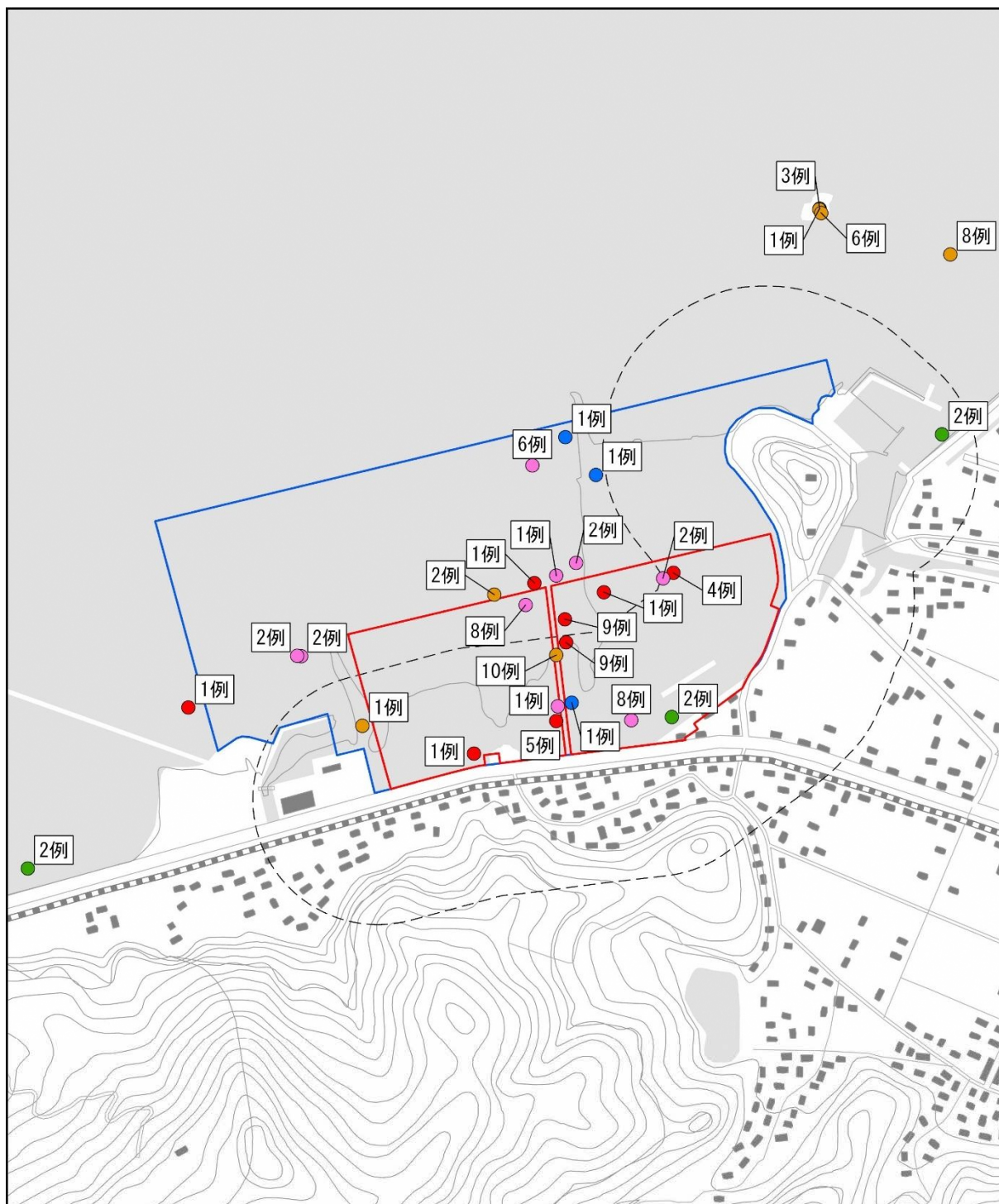


図7.1.7-3(4) クロツラヘラサギの確認位置図

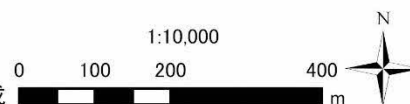
凡例

- 1月
- 3月
- 5月
- 8月
- 10月

- 埋立区域
- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(調査ルートより半径200mの範囲)

注) 図注の数値は、確認例数を示す。

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成



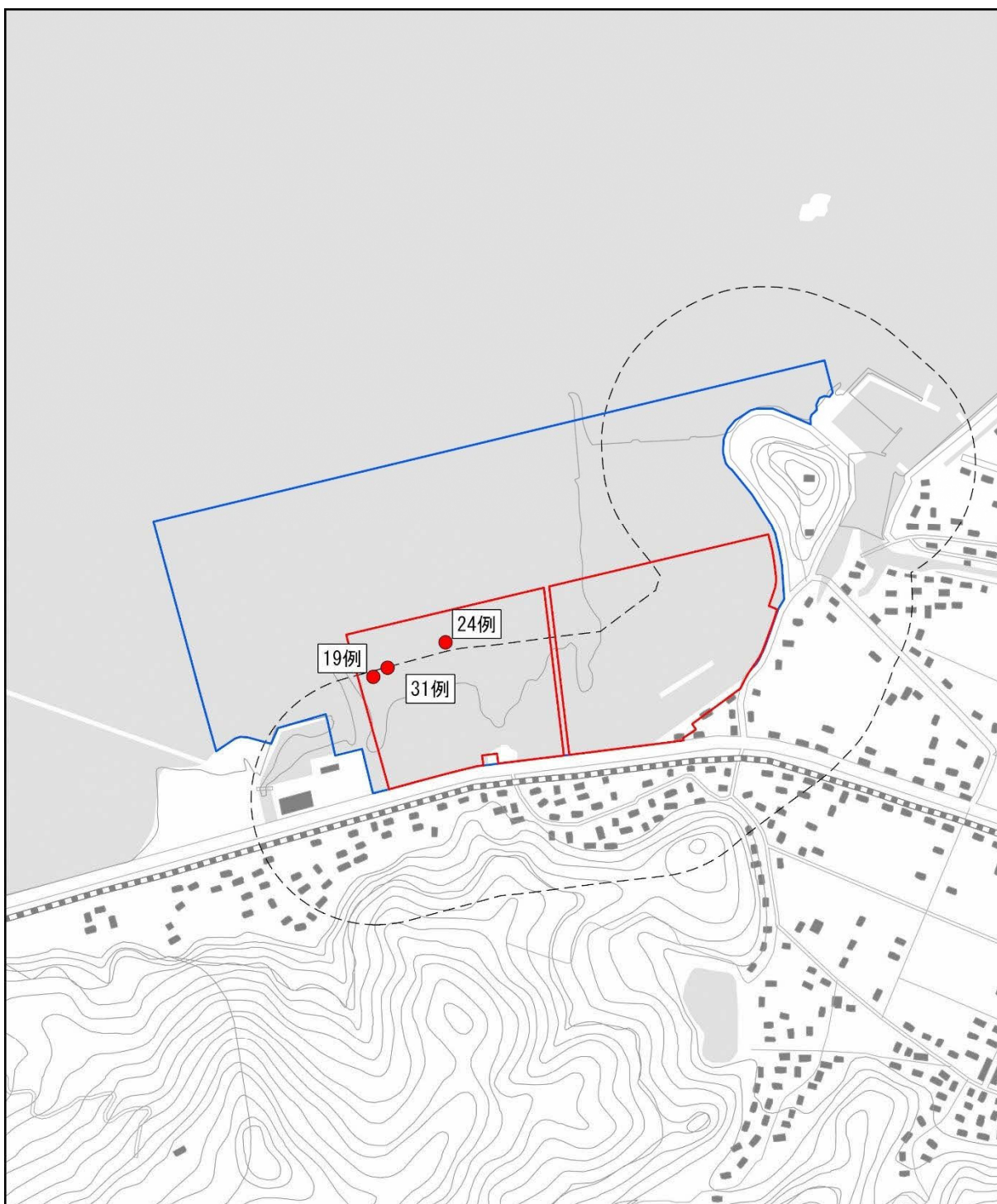


図7.1.7-3(5) シロチドリの確認位置図

凡例

● 1月

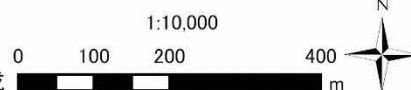
埋立区域

対象事業実施区域

調査範囲
(調査ルートより半径200mの範囲)

注) 図注の数値は、確認例数を示す。

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成



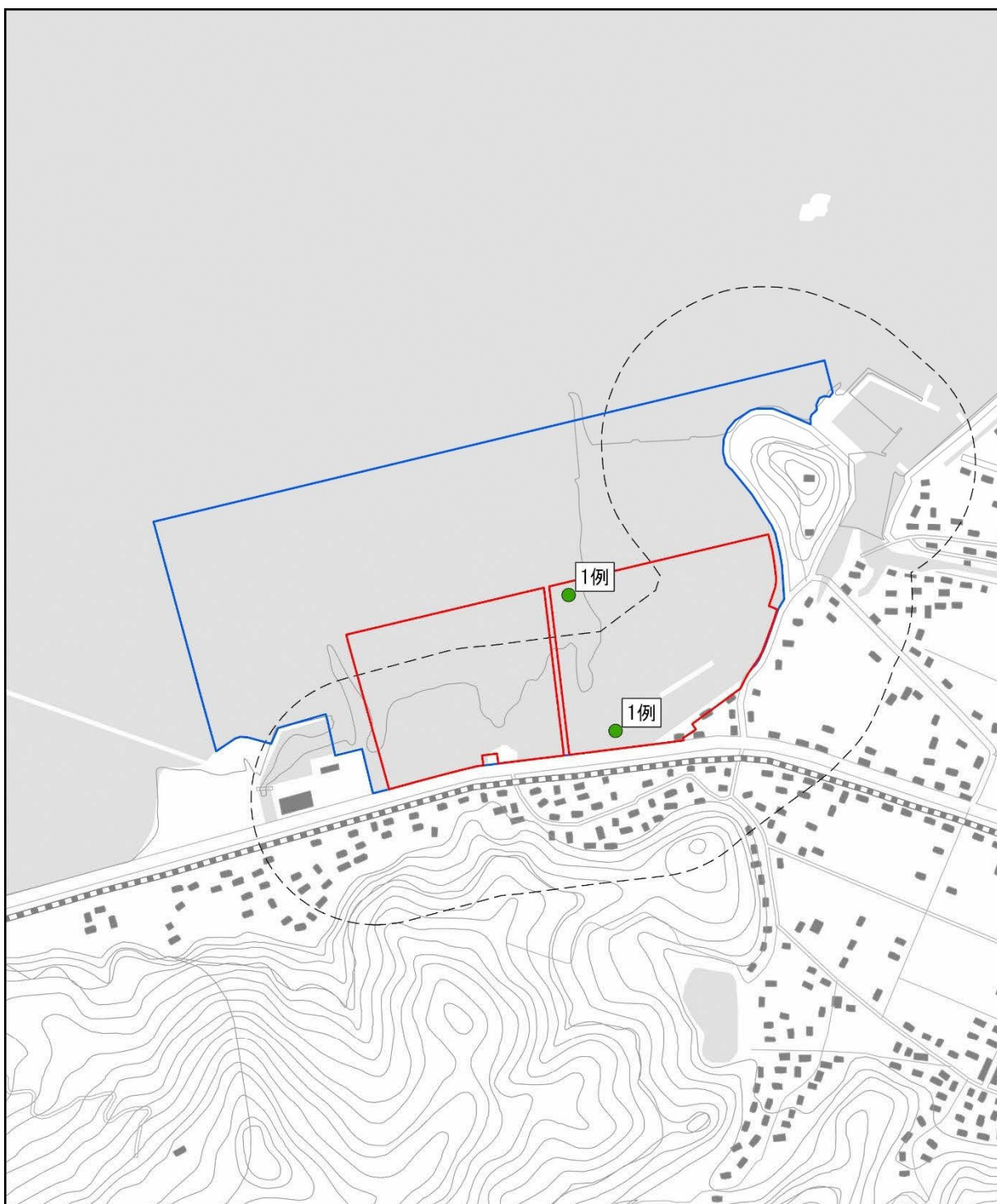


図7.1.7-3(6) オオソリハシシギの確認位置図

凡例

● 5月

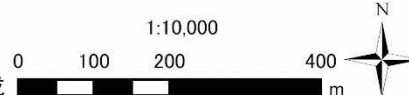
埋立区域

対象事業実施区域

調査範囲
(調査ルートより半径200mの範囲)

注) 図注の数値は、確認例数を示す。

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成



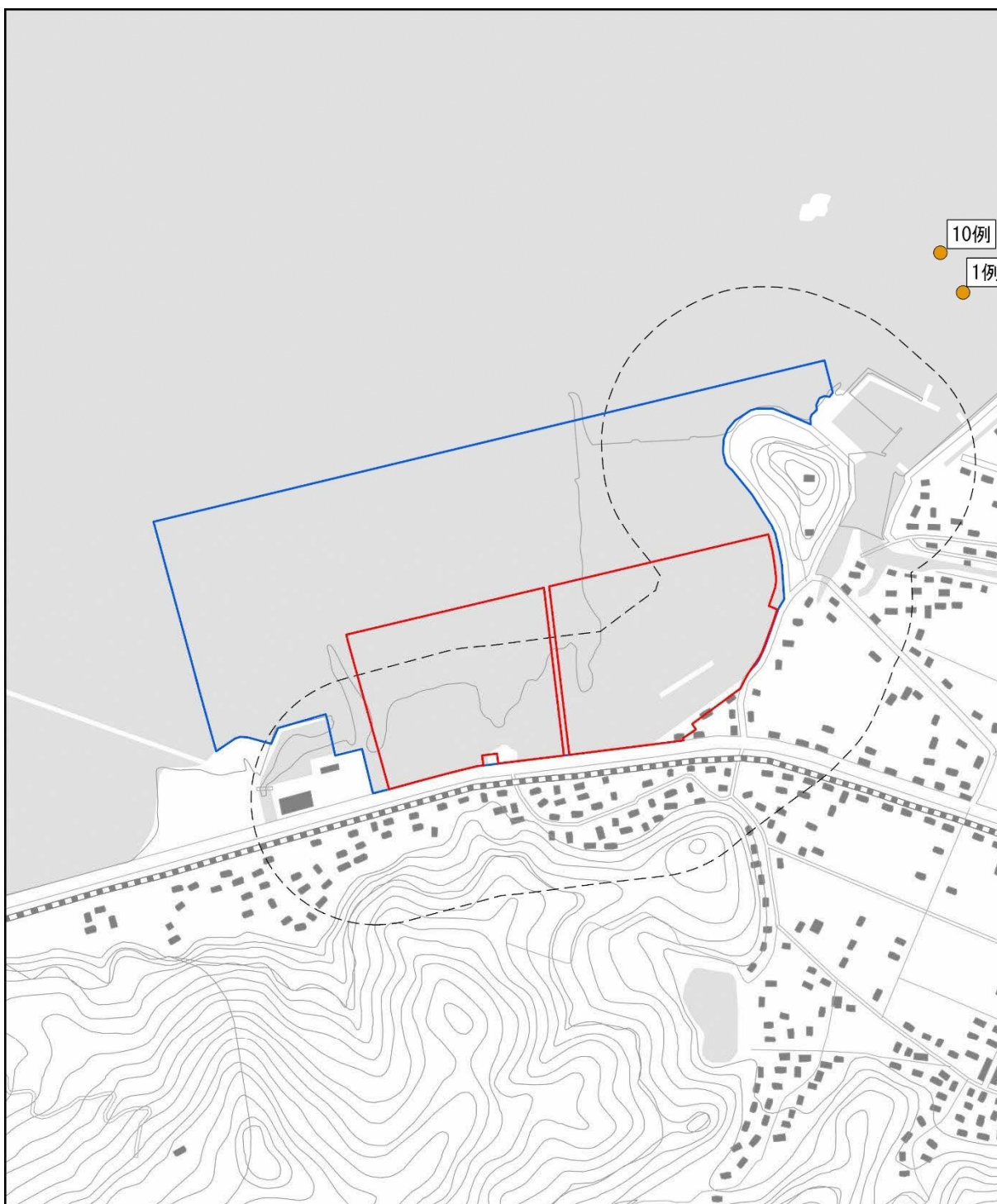


図7.1.7-3(7) ダイシャクシギの確認位置図

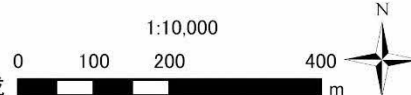
凡例

● 10月

埋立区域
 対象事業実施区域
 調査範囲
 (調査ルートより半径200mの範囲)

注) 図注の数値は、確認例数を示す。

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成



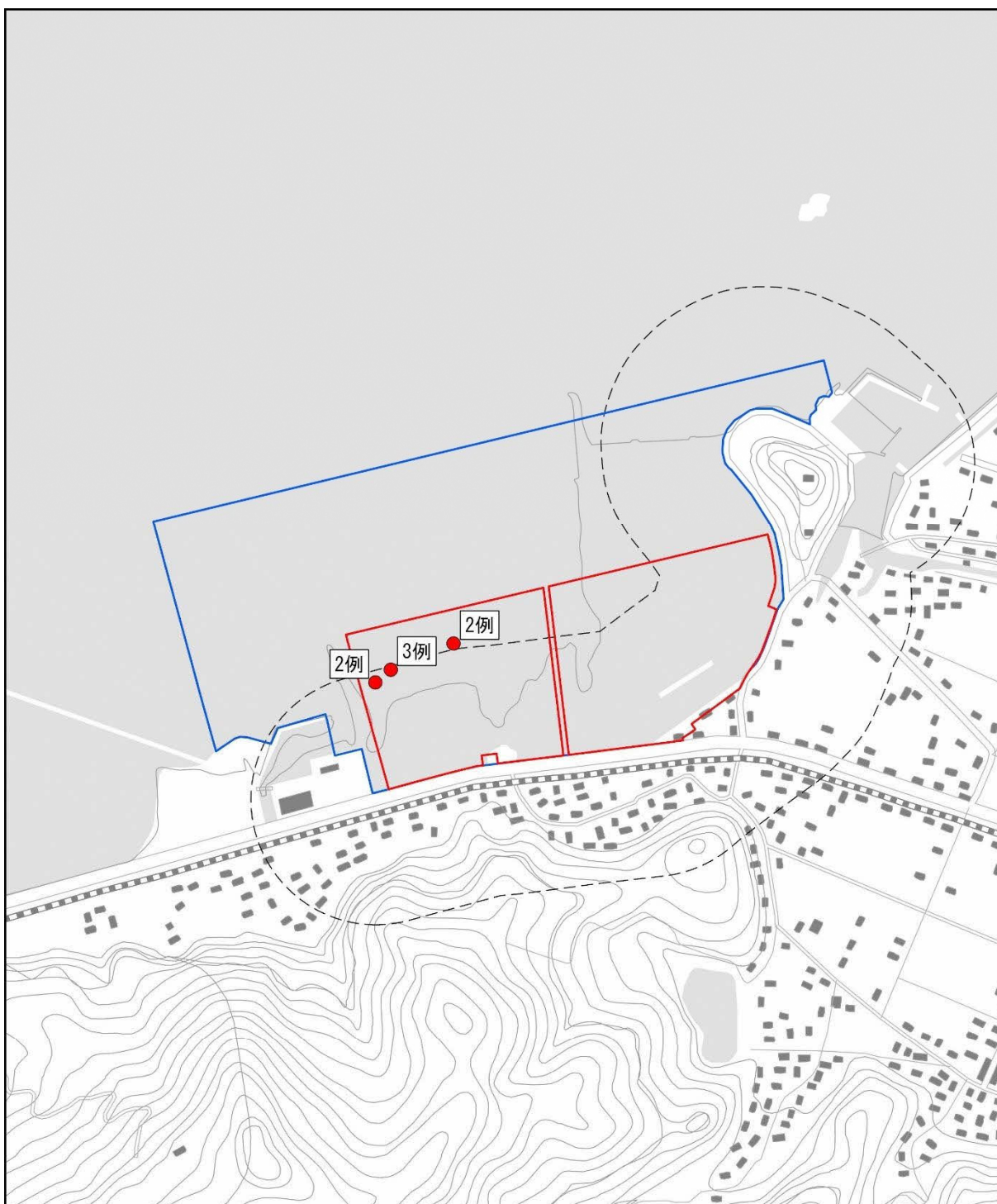


図7.1.7-3(8) ハマシギの確認位置図

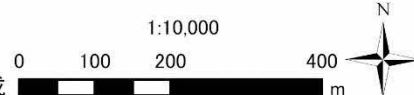
凡例

● 1月

埋立区域
 対象事業実施区域
 調査範囲
 (調査ルートより半径200mの範囲)

注) 図注の数値は、確認例数を示す。

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成



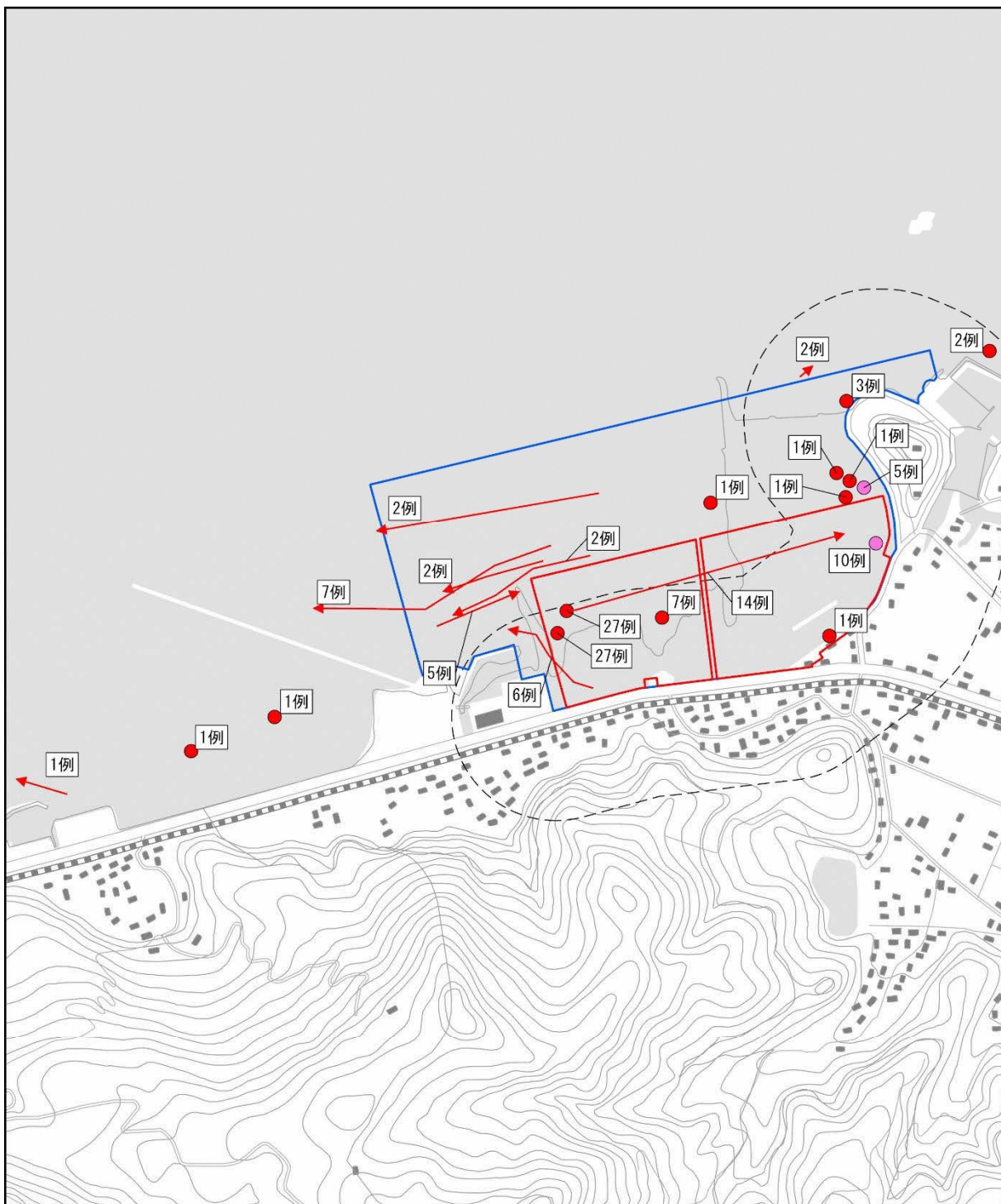


図7.1.7-3(9) ズグロカモメの確認位置図

凡例

● 1月
→ 3月

埋立区域
対象事業実施区域
調査範囲
(調査ルートより半径200mの範囲)

注) 図注の数値は、確認例数を示す。

※「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/>) をもとに作成

1:12,000
0 100 200 400 m

